

土木技術者に求められること

一般財団法人計量計画研究所 (IBS)

企画部 技術営業部長

鈴木 紀一

1 沖縄県との関わり

1) 沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査

①第1回PT調査 1977年 人口：81万人

- ・ 沖縄振興開発計画で新しい交通システムの必要性が提起【主たるテーマ】
- ・ 道路網に加えモノレールをマスタープランに位置づけ

②第2回PT調査 1989年 人口：94万人

【主たるテーマ】

- ・ 軍用地転用による新都市センターの形成と都市軸の形成
- ・ 西原までのモノレール計画に加え幹線バス道路を提案（沖縄市、与那原、糸満まで）
- ・ 現中部縦貫と宜野湾横断のルート提案
※当時担当者 沖縄県都市計画課 主幹 兼城克夫氏の熱意

1 沖縄県との関わり

1) 沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査

③第3回PT調査 2006年 人口：111万人

【主たるテーマ】

- ・ 幹線バス道路から新たな公共交通システムへ更新
- ・ ネットワーク計画中心から各種施策群（TDM、MM、道路空間の有効活用、交通システム導入による拠点形成等）のプロトタイプを提案

1 沖縄県との関わり

2) その他主な検討調査

①モノレール関連

- ・ 特許申請や事後の利用促進計画

②沖縄政策協議会 社会資本部会 第3PT

「通信・空港・港湾等のインフラ整備」において
中部縦貫・宜野湾横断の提案（1997年）

③沖縄県総合交通体系基本計画（1999～2001年）

【特徴】

- ・ 効率的な効果を発揮させるための施策パッケージを提案
- ・ 整備、維持可能な提案
- ・ 計画実現させるための組織提案
- さらに、計画をより現実のものとするため、バス網再編、TDM、MM等の検討

1 沖縄県との関わり

3) 四半世紀を振り返って思うこと

- ・ まだ十分でないものの、**基盤整備は着実に進展。**
特に広域の基盤整備。
- ・ **道路の骨格的ネットワークのアイデアは概ね出つくした。**
- ・ **公共交通の目指すべきレベルをどこまで上げるか？**
- ・ **これまでは、圧倒的に不足している基盤や旺盛な土地需要を背景に、交通施設や返還軍用地開発等、需要対応の基盤整備重視型整備や計画を展開させてきた。**
- ・ **既に、那覇空港は、ハブ機能としては本土並以上の水準に達している。**

2 沖縄県の特徴

- 沖縄県は、日本の中では中央政府から最も遠い
→逆に、これからの発展が見込まれる東アジア
や南太平洋に、日本の中では最も有利な位置
- 県土は東西1000km、南北500kmの広がり
日本の中では最も県土維持・発展に負担大
→逆に、県内で「陸・海・空」全てのモードの
技術等（ハード・ソフト）のノウハウが蓄積
- 沖縄本島中南部は人口集積、北部はやんばるの
自然等、土地利用等に明確な違いがある
- 県土に広く存在する観光資源。
県民が気づいていない資源もあるはず

3 これからの県土整備の方向性

- ・ 交通施設整備は、利用ターゲットを明確に意識して。速達性を必ずしも重視しない交通施設もある。
ex. 観光周遊のための移動であれば、ゆっくり移動することで、色々なものが発見できる
- ・ 地域活力向上が第一であり、施設整備はその手段。よって、土木技術者だけでなく幅広い連携が必要。
- ・ 今ある交通施設を効率的、地域活力向上を図れるように地域での取り組みを提案することも必要。
- ・ 選択と集中を実現するための合意形成。

【更に発展的展開】

- ・ ノウハウを蓄積し、東アジア・南太平洋への技術展開